

下水道事業における 今後の経営状況の見通し

令和4年 11 月
仙台市建設局

目次

1 はじめに.....	1
2 経営状況の見通し.....	2
3 使用料改定.....	3
4 適正な収支構造に向けた取り組み	4
5 経費回収率の維持向上に向けた検証.....	5

1 はじめに

本市の下水道事業は、明治 32 年の着手以来、約 120 年にわたり都市の健全な発達と公衆衛生の向上に寄与することで、仙台のまちづくりの基礎を支えてきました。しかし、今後人口減少社会を迎える中、有収水量の減少に伴う使用料収入の減少や、施設・設備の老朽化に伴う修繕費・更新費用の増加など、下水道事業を取り巻く環境はますます厳しくなっていきます。将来にわたり持続可能な下水道事業を運営していくためには、経費回収率の向上について検討を行っていくことが求められています。

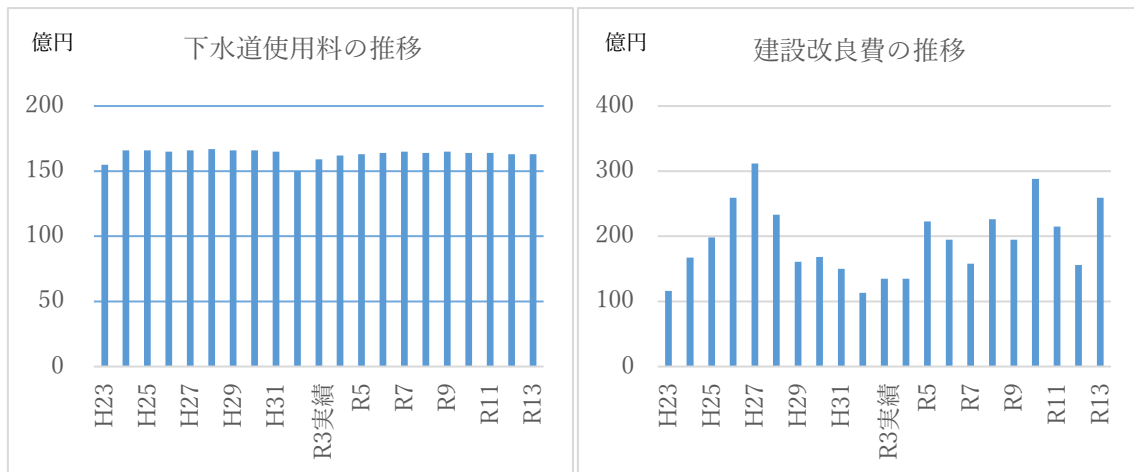
こうした背景のもと、国においては、「社会資本整備総合交付金等の交付にあたっての要件等の運用について」(令和 2 年 3 月)等において、令和 2 年度以降、少なくとも 5 年に 1 回の頻度で下水道使用料の改定の必要性に関する検証を行うとともに、その検証結果を踏まえ、経営戦略における「投資・財政計画」の期間中に経費回収率の向上に向けたロードマップを作成し、収支構造の適正化に係る具体的取り組み及び実施予定時期を明記することとされました。

そのため、本市として、「仙台市下水道事業中期経営計画(令和 3 年度から令和 7 年度まで)」(以下「中期経営計画」という。)の別冊として、下水道事業における今後の経営状況の見通しを示しつつ、下水道使用料に関する検証を行うとともに、収支構造の適正化に係る取り組みを取りまとめました。

2 経営状況の見通し

下水道事業は、今後、下水道使用料収入については新型コロナウイルス感染症の影響からの回復を見込むものの減少傾向が続き、また、物価高騰の影響や老朽化が進む下水道施設の更新に要する費用等の増加が見込まれますが、本見通し期間中においては、アセットマネジメントによる経営効率化の取り組みなどにより、純利益も確保し、健全な経営を維持できる見込みです。経営状況を示す指標である、経費回収率と経常収支比率について以下に示します。

なお、より長期的な視点で経営状況を見通しながら経営の持続性を検証していくため、中期経営計画期間以降(令和 8～13 年度)の収支見通しも参考として試算し、中期経営計画期間と併せて 10 年間の見通しとしています。



(1)経費回収率(見通し)

項目	R3実績	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
経費回収率	109.8%	100.4%	104.6%	108.6%	108.8%	108.6%	107.6%	106.0%	104.1%	103.3%	102.4%
使用料収入 (百万円)	15,888	16,214	16,300	16,382	16,520	16,438	16,459	16,374	16,362	16,327	16,328
汚水処理費※ (百万円)	14,467	16,154	15,587	15,079	15,180	15,135	15,297	15,446	15,718	15,813	15,944

※汚水を処理するのに要した費用

下水道事業の経費は、原則、当該事業の経営に伴う収入をもって充てなければならないとされています。

下水道事業の経費をどの程度使用料で賄えているかを表す指標である「経費回収率」に関して、本市では、平成 14 年に資本費算入率を 100%とする料金改定を行い、平成 22 年度に経費回収率 100%を達成しました。東日本大震災の影響により平成 23 年度に 100%を割り込みましたが、その後令和 3 年度までの間 100%以上の水準を維持してきました。

経費回収率については、物価高騰や下水道施設の更新費用増加等の影響はあるものの、本見通し期間中は100%以上の水準を維持できる見込みです。

(2) 経常収支比率(見通し)

項目	R3実績	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
経常収支比率	108.5%	103.3%	104.6%	106.8%	106.8%	106.8%	106.3%	105.5%	104.6%	104.2%	103.8%
経常収益(百万円)	34,129	34,570	34,233	34,433	34,649	34,224	34,310	34,331	34,563	34,643	34,663
経常費用(百万円)	31,459	33,461	32,732	32,252	32,437	32,054	32,282	32,535	33,049	33,257	33,405

企業の経営活動による経常的な収支の指標である経常収支比率については、経費回収率と同様、物価高騰や下水道施設の更新費用増加等の影響はあるものの、本見通し期間中は100%以上の水準を維持できる見込みです。

(3) 経営指標に関する検証

上記の通り、経費回収率及び経常収支比率については本見通し期間中、100%以上の水準を維持できる見込みです。

しかしながら、人口減少の影響等による有収水量の減少に伴う使用料収入の減少や、下水道管渠やポンプ場等の下水道施設の老朽化の進行等により、令和6～8年度頃をピークに経費回収率、経常収支比率ともに、次第に低下していく見通しで、その後も減少傾向は続くものと想定しており、本見通し期間以降は100%を割り込むことが見込まれます。

3 使用料改定

経費回収率及び経常収支比率については、本見通し期間中、100%以上の水準を維持できる見込みであることから、当面、使用料改定は必要ない状況です。

4 適正な収支構造に向けた取り組み

中長期的に、下水道事業を取り巻く環境がますます厳しさを増していく中であっても、公営企業としての経営の健全性を確保し、財務基盤を強化していくため、本見通し期間内においては、引き続き、以下のような取り組みを実施し、適正な収支構造と経費回収率の維持向上に努めてまいります。

(1)コスト縮減

- ・ 事業を計画するにあたり、建設費だけでなくその後の維持管理費も含め、総合的にコスト縮減が可能となるよう努めます。
- ・ 工事実施にあたり、建設費及び維持管理費の縮減に寄与する新技術や省エネルギー機器の導入の検討を進め、積極的な採用を図ります。

(2)資金の確保

- ・ 収入の確保及び負担の公平性・公正性を図るため、未水洗家屋への訪問指導による水洗化促進や、地下水利用者の実態把握、滞納者に対する督促、催告により使用料収入の確保に努めます。
- ・ 廃止施設跡地の売却や有効活用を図るとともに、ICTの活用の可能性など、下水道の新たな収入確保の方策を検討します。

(3)適正な下水道使用料の検討

- ・ 一層の経営の効率化を図りながら、アセットマネジメントによる事業量の推計に基づく中長期的な損益・資金収支のシミュレーションを行い、経費回収率の維持向上を含めた適正な使用料の水準を検討します。

5 経費回収率の維持向上に向けた検証

国土交通省「社会資本整備総合交付金等の交付にあたっての要件等の運用について」(令和2年3月)等に基づき、経費回収率の維持向上に向けた検証時期を以下に示します。

経費回収率の維持向上に向けては、引き続き、コスト縮減や確実な収入の確保に努めてまいります。使用料についても、中期経営計画策定時に併せて検証し、適正な使用料の水準について検討してまいります。

年次計画	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
マスタープラン	現行				次期					
中期経営計画	現行				次期					
中期経営計画(別冊)	現行									
収支計画の見直し・ 使用料に関する検証	現在		次回							

下水道事業における今後の経営状況の見通し
【仙台市下水道事業中期経営計画[令和3～7年度](別冊)】

令和4年11月

編集・発行 仙台市建設局下水道経営部経営企画課
〒980-8671
仙台市青葉区国分町三丁目7番1号
TEL 022-214-8509(直通)